

けいはんなから新しい産業を

【寄稿】

けいはんなとナラセン ―教育における産学連携―
奈良先端科学技術大学院大学 学長 磯貝 彰 氏

【注目！企業インタビュー】

株式会社加地 株式会社オプトシステム

【企業セミナー】

世界同時不況時における企業の特許戦略

【イベント報告】

第4回けいはんなビジネスメッセ

入居企業紹介／(株)フレアリンク TF技研
(株)ATR-Trek

【センター広報誌】 Vol. 5

けいはんな View

KEIHANNA New Industry Creation and
Interactive Community Center Information



(財)関西文化学術研究都市推進機構
新産業創出交流センター

特集

次代に誇れる
サイエンスシティを目指して
―けいはんなから持続可能社会モデルを―





けいはんなとナラセン －教育における産学連携－

奈良先端科学技術大学院大学 学長

磯貝 彰

けいはんな学研都市（関西文化学術研究都市）にある奈良先端科学技術大学院大学は、地域にあっては先端大と略称されるが、全国の大学関係者の間ではナラセン（奈良先）と略称される。けいはんなにおけるナラセンは、その中で唯一の国立の機関として、文化・学術・研究のうちの学術の中心的な担い手であることを期待されていたことであろう。ナラセンの創設準備委員会は「本大学院大学は、先端科学技術分野に係る高度の基礎研究を推進すると共に、大学等の研究者の養成のみならず、企業において先端科学技術分野の研究開発等を担う高度の研究者、技術者等の組織的な養成及び再教育を行うことを目的とする」として、人材育成の重要性を明記している。

ナラセンは、2011年には創立20周年を迎えるが、この間、情報、バイオ、ナノテクの先端的な分野での学術の発展とそれを通じた人材の育成に努め、その存在を全国に示してきた。一方、今、社会的には、博士課程における大学の人材育成と企業が必要とする人材とのミスマッチ問題が指摘されている。これまでは産学連携というと、研究における連携が重視されてきたが、今後は、教育における連携、すなわち、大学院修了生達が、社会で幅広く活躍できるように、インターンシップなどの企業経験を通じて、自らが活躍すべき社会の状況を正確に理解し、自ら学修していくことを可能とするシステム作りが必要となろう。企業等の研究機関の理解も得て、けいはんなとナラセンがそうした形でも結びついていくことを期待している。

次代に誇れるサイエンスシティを目指して — けいはんなから持続可能社会モデルを—

京都大学名誉教授の奥田東先生が「ローマ・クラブの研究報告『成長の限界—ローマ・クラブ人類の危機レポート』」に着目され、「関西学術研究都市調査懇談会」（通称・奥田懇談会）を発足されてから、約30年。サード・ステージを迎えたけいはんな学研都市の現状認識と今後の課題や展望について、各界の代表の皆様方と意見交換を行いました。



関西経済連合会 応接室

— けいはんな学研都市の現状と課題に対する基本認識について

二宮 我が国を代表する研究開発拠点の1つであるけいはんな学研都市の現状を先ずどのように認識されていて、今後、関西・日本・世界の中でどのような役割を果たすべきか。それぞれのお立場からご意見をお伺いします。

高嶋 けいはんな学研都市は、国家プロジェクトとして建設が進められ、現在では110を超える研究機関や企業、大学が立地し、また、20

数万人の人々が居住するなど、我が国を代表するサイエンス・シティとして発展してきています。今、推進中の「学研都市サード・ステージ・プラン」が目指す「持続可能社会」の実現に向けて、地球規模の課題解決に先導的な役割を果たし、国際社会に貢献していくことが、けいはんな学研都市の使命として、今強く期待されています。

竹田 マスコミに関わる者として感じる事は、「けいはんな学研都市を知らない人が多い」「マイナスイメージのみが目立つ」ということ。私

のしごと館の閉館問題や（株）けいはんなの民事再生問題があるからだろうと思いますが、決してそうではない。

13年前、私が、けいはんな支局にいた頃に比べると交通もかなり便利になった。大型の商業施設もできている。住宅地も増え、人口が増加するなど、力強く発展しているのに、マイナスイメージが先行して、良いところが広く知られていない。これからは、情報発信のエリアの拡大、それも、東京などの都市外への発信が求められるのではないのでしょうか。かつて、関西の2大国家プロジェクトであった「けいはんな学研都市」と「関西国際空港」をキーワードに記事を検索しても、良いにつけ、悪いにつけ、やはりその件数に、大きな差があります。

田辺 今、けいはんな学研都市は、「踊り場」にあると思います。当初の計画からみて現状はどうなのか。特に、関西・日本・世界から見て、「魅力ある都市」として機能しているのか。原点を振り返りつつ、今求められている事項に大胆に応えられるよう、大きく舵を切る必要があると思います。

高嶋 御指摘のとおり、私のしごと館や未整備クラスターの問題、交通基盤の一層の充実等課題は残っています。また、社会経済情勢が大変厳しい状況にもありますが、こういう時だからこそ、なお一層関係団体と力を合わせて、今、展開されている様々な取り組みを、新たな切り口で展開し、発信したいと考えております。け



京都府 政策企画部部長 高嶋 学氏

いはんな学研都市から生み出される先端技術や新たなライフスタイルをショーウィンドウ化し、次代を拓く「けいはんなブランド」として、国内はもとより、海外に向かって発信していきたいものです。

稲田 都市は、いろいろな要素が共存して、形成されています。けいはんな学研都市の「強み」「特長」は何かを見据え、それらを活かしていきたいと考えています。そのためには、けいはんな学研都市にはないものや異質なもののとの交流を、積極的に行うことが必要だと思います。



関西文化学術研究都市推進機構 常務理事 稲田 進氏

— けいはんな発のオープンイノベーションで、新たな産業創出を！

二宮 次に、新産業創出に向け立ち上がっているプロジェクト等に着目し、けいはんな学研都市の取り組みとして、何が求められているのかをお話下さい。

竹田 中小企業やベンチャー企業との連携について注目しています。ATR（（株）国際電気通信基礎技術研究所）やRITE（（財）地球環境産業技術研究機構）などすばらしい研究機関と、ユニークな技術をもった中小企業が多く立地している。けいはんな学研都市に進出し、中小・ベンチャー企業が種々の研究機関と連携ができ、共同研究が進み、けいはんな学研都市発の新技术や新製品を生み出して行けるという風土作りが重要です。また、共同で会社を設立して、そ

の成功事例をどんどん出していくことが、今、けいはんな学研都市に求められていることだと感じています。

田辺 研究機関が立地し、そこに多くの研究者が集まるだけでなく、今までの技術革新の例が示すように、「異質なものの融合」が重要だと思います。新産業創出で特に必要なのは、研究開発と生産との連携と良い意味での緊張関係だと思います。例えば、植物バイオの研究所の隣に植物工場があって常に行き来しているような、そういったモデルを作ることができれば素晴らしいと思います。

稲田 最近、高山サイエンスプラザにあるNEC C&Cイノベーション研究所などはオープンイノベーションに着目した仕組み作りを進めています。また、先頃は、けいはんな学研都市の情報通信関連研究機関や大学等が協力し、研究成果の発信、相互連携促進、地域との密着を目的とした「情報通信フェア2009」を都市内の10の研究所に協力していただき実施しました。皆で一緒に何かやろうという機運が急速に出てきています。

二宮 そうですね。新産業創出交流センターでは、本年度、経済産業省から「低炭素社会実証モデル事業」を受託し、現在、「有機性廃棄物エネルギー完全転換装置による低炭素・ゼロエミッション社会の構築」をテーマとして、けいはんな地域の産学官連携に加えて、住民の方々とも連携し、けいはんな発の新たな「循環型社会の構築」に向けた取組を進めています。

高嶋 京都府では、今お話しのあった「低炭素社会実証モデル事業」の実施をはじめ、けいはんな学研都市の新たな魅力づくりとして、「けいはんなエコシティ推進プラン」を今年策定し、『「エコ」をけいはんな学研都市の「文化」にする!』をコンセプトに取り組みを進めています。その中で、「環境・エネルギー」分野を重点に、産学公連携によるオープンラボを構想するなど、プラットホーム作りを進めたいと考えています。

そうした取り組みをはじめ、新産業の創出や産業立地の促進、EVによる次世代交通システムの構築、スマートハウスや街区全戸に太陽光パネルを導入する環境共生住宅の整備など、科学技術と生活文化が融合した環境を中心とした「持続可能な都市モデル」を構築し、世界に発信していきたいと考えています。



田辺 エコシティ推進プランは大賛成です。関西経済連合会でも次世代環境技術委員会、地球環境・エネルギー委員会等で議論を重ねて政府への提言を行い、また、昨年から、関西の優れた環境技術を「環境・エネルギー技術・製品事例集」として、世界に発信するなど重点事業として取り組んでいます。大学・研究機関とともに企業が立地し、かつ、住民が生活されているけいはんな学研都市は、環境分野での格好の実証実験の場であり、テストフィールドとしての機能を特に期待しています。

二宮 けいはんな学研都市における研究開発・産業創出のメインプレイヤーはここに進出して下さっている大学・研究機関・企業の方々であります。その中で、我々の役割は、①これらの方々活躍し易い場作りへの支援を進め、そして、各機関単独でやれないものについては、②けいはんな学研都市の特性を活かした産学公住連携の仕組みを構築し、具体的な研究開発・事業化への取り組みを進め、その結果、③ユニークな技術・事業・産業をここから創出する事にあると考えています。

— 次代を担う人材育成や、アジア地域との関係強化を！

二宮 次に、昨今の厳しい経済環境の中で、関西の産業界の現状と課題の認識についてお話しして頂き、その認識の上で、このけいはんな学研都市の特性を活かした産業活性化の取り組みについてご提案をいただきます。

竹田 リーマンショック以降、関西にも経済の逆風が吹いていますが、ここ数年、関西では全国を上回る設備投資が行われています。関西湾岸地域では薄型テレビ向けプラズマや液晶・太陽電池などパネル関連産業の生産拠点「パネルベイ」の建設が、この不況下にもかかわらず進んでいます。また、太陽光発電や電池などの「新エネルギー産業」が、集積していることも注目されています。では、なぜ関西にそういった拠点があるのか。それは、基礎技術や素材、部材など歴史的な集積があり、ものづくりの基盤が関西にはあるからだと考えられます。今後、けいはんな学研都市ともうまくリンクさせて行く必要があるのではと思っています。

もう一つは、「健康・医療産業」の分野だと思っています。けいはんな学研都市にある、(独)日本原子力研究開発機構 関西光科学研究所では「光医療産業バレー拠点創出」プロジェクトが進んでいます。こういった医療産業分野の取り組みを都市内にとどめておくのではなく、広げていく必要があると思います。期待をしているところです。



産経新聞 大阪本社 編集局経済部 部長 竹田 徹氏



関西経済連合会 理事 田辺 貞夫氏

田辺 土地も資源も乏しい我が国が、持続的な成長を遂げていくためには、革新的な技術開発を担う人材の育成が大切ですね。その意味でけいはんな学研都市は、大学等の教育機関と研究機関や企業が連携して新たな「教育モデル」をつくる絶好の場所だと思います。

高嶋 京都をはじめ、関西は、太陽電池や二次電池、LEDなど、環境関連産業分野においてトップクラスの世界シェアを誇ります。今後は、こうした京都・関西企業の強みを活かし、けいはんな学研都市では、「環境・エネルギー」分野を重点に、産学公連携による新技術の開発や人材の育成など、環境産業創出に向けた戦略的基盤づくりを推進していきたいと考えています。

また、木津中央地区の整備進展により、京都大学農学研究科附属農場の移転も予定され、京都府立大学や奈良先端科学技術大学院大学との連携による農業、食糧分野の新たな研究、新産業創出も大いに推進したいものです。

稲田 研究機関や大学の成果を教育面で活かそうとする「科学のまちの子どもたちプロジェクト」では、地元の中学生在が数班に分かれて施設見学を行い、研究者の話を聞いて壁新聞で発表するという事を実施しました。その壁新聞はN E Cの研究所の食堂に掲示し、そこで働く研究者が読んで「他ではこんな事もやっているのだな」と思ったりしているようです。けいはんな学研都市で育った「学研育ち」に誇りがもてる

ような取り組みはやるべきだと感じています。

二宮 最後に、環境の世紀と言われる21世紀においてはグローバルな視点から種々の対応が求められますが、どのような取り組みをお考えでしょうか。

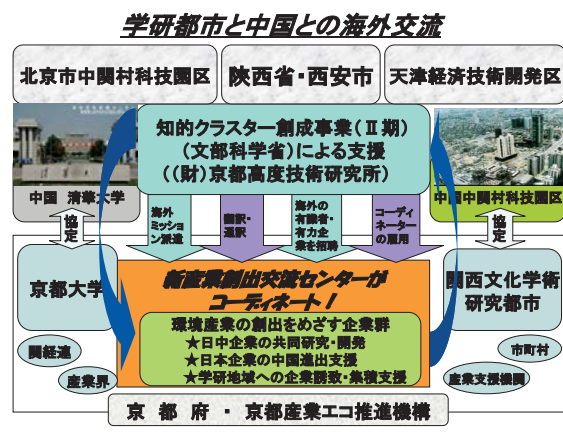
高嶋 けいはんな学研都市では、(財)関西文化学術研究都市推進機構が、平成17年11月、中関村科技園区管理委員会と交流協定を締結し、現在では、清華大学や京都大学をはじめ、日中の環境関連企業による産学公連携を構築し、水処理技術を中心に、環境ビジネスを本格化させています。さらに、太陽光発電やリチウムイオン電池、LEDライト、バイオエタノールなどの新エネルギーや省エネルギーにより経済成長政策を推進している韓国政府とも、今年9月、山田知事が韓国の大徳(テドク)研究開発特区を訪問し、政府機関はもとより関係研究機関との交流を始めたところ。今後とも、中国や韓国をはじめとするアジア諸国を中心に、海外のリサーチパークとの研究交流ネットワークを構築し、交流を進めることにより、けいはんな学研都市が、アジアをリードする科学技術振興の拠

きます。

稲田 けいはんな学研都市の国際交流活動は、益々重要となってまいります。京都府は大変熱心に取り組んで頂いていますが、今後、より多くの関係者の御参画により、その取り組み効果が最大限に発揮出来るよう、近畿経済産業局、関西経済連合会、3府県、市町関係、機関などの皆様と一緒に進めていける枠組みを早急に構築する事が必要で、皆様方のご支援をお願いしたいと考えています。



新産業創出交流センター センター長 二宮 清



点として発展するよう取組を進めていきたいと考えています。

また、けいはんな学研都市で働く外国人研究者にとって、安心して研究が出来る環境整備も大きな課題であり、2年後には同志社国際学院初等部・国際部が開校するので、世界に開かれた学研都市を発信できるチャンネルも増えてい

二宮 本日は、けいはんな学研都市発展のために、示唆に富んだご意見を多数賜りまして、誠にありがとうございました。我々、けいはんな学研都市の活動に従事する者としては、ある意味で初心に戻り、かつ現状をしっかりと直視して、新たな展開を着実に進めねばならないと認識致しました。けいはんな学研都市の各研究機関は、音楽に例えれば、それぞれから世界に誇れる超一流の独奏曲が創り出されていると言えます。今後、これらを連携・融合して、協奏曲や交響曲が創出されるような環境を、私共が関連機関と協力して創り出さねばならない。そしてそれらの中に、ここに進出されておられる大企業、中堅企業、ベンチャーの皆様にご活躍いただける場を設け、新しい産業の創出を進めていかねばならないと思います。本日はどうもありがとうございました。

環境プロジェクトの取組について

新産業創出交流センターでは、環境先進都市「けいはんな」を目指した環境プロジェクトの創出や環境産業の育成に取り組んでいます。

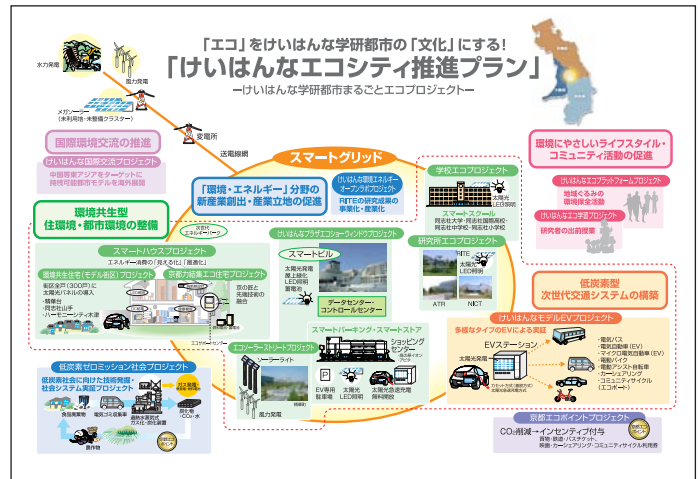


けいはんな環境・エネルギー研究会について

昨年(平成20年)4月に立ち上げた「けいはんな環境・エネルギー研究会」の活動を基盤として、この程、その新たな展開を目指した「けいはんなエコシティ推進プラン」が策定されました。

これは『「エコ」をけいはんな学研都市の「文化」にする!』のキャッチフレーズの下に、「環境・エネルギー分野における新産業の創出」や「低炭素型次世代交通システムの構築」などを柱とするビジョンで、その具体化に向けた取り組みを始めています。なお、これは京都府の提唱の下に、各界の有識者からなる「けいはんなエコシティ推進プラン検討委員会(座長 京都大学大学院工学研究科 教授 松重和美氏)において検討が重ねられてきたものです。

また、平成21年経済産業省の委託事業「低炭素社会に向けた技術発掘・社会システム実証モデル事業」の(テーマ:有機性廃棄物エネルギー完全転換装置による低炭素・ゼロエミ社会の構築)及び、中小企業基盤整備機構委託事業「川上・川下ネットワーク構築事業」の採択を受けました。現在、産学公住連携の下に、持続可能社会・低炭素社会実現に向けた環境・エネルギー産業の創出を目指して、事業を展開しています。



経済産業省委託事業

低炭素社会に向けた技術発掘・社会システム実証モデル事業

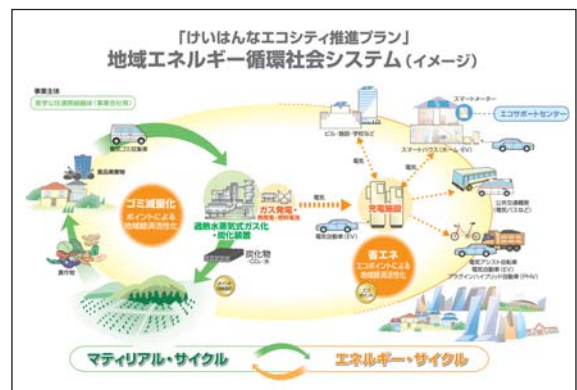
(テーマ:有機性廃棄物エネルギー完全転換装置による低炭素・ゼロエミ社会の構築)

平成20年来、精華町・北稻八間区の住民の方々のご支援の下に、「過熱水蒸気式ガス化・炭化装置」の予備実証実験が進められて来ました。これを継承し、この程、経済産業省のご支援を得て、家庭の燃えるゴミを対象に、本格的な実証事業を進めています。

事業の内容は、高温の水蒸気で可燃ゴミを分解し、ガス発電でエネルギーを取り出し、太陽光発電からのエネルギーと併せて「電気ゴミ収集車」を走らせようとするものです。核となる装置は、ゴミを、焼却するのではなく、約800度の水蒸気が持つエネルギーでガス化・炭化するものであり、ダイオキシンは発生しません。

なお、この装置によって生成される炭化物は、土壌改良剤・吸湿剤・防臭剤等として利用することができ、ゴミの減量化に依じて、ポイントを付与し、炭化物と交換出来る仕組みを構築します。

今回の取組には、精華町の住民の方々や同町環境ネットワーク会議の会員の方々にご協力いただきます。取組の経過は、精華町環境ネットワーク会議 (<http://www.stepnet.jp>) や(財)関西文化学術研究都市推進機構・新産業創出交流センターのホームページでお知らせしていきます。(<http://keihanna.biz/>)



過熱水蒸気式ガス化・炭化装置(打越台)

中小企業基盤整備機構委託事業

平成21年度川上・川下ネットワーク構築事業

けいはんな「環境・エネルギー」新・産業創出フォーラム開催

川上・川下ネットワーク構築事業は各産業分野において、受け手側の視点に立ち、大企業（川下企業）のマーケットニーズと、中小企業（川上企業）の技術シーズの情報を交流させる取り組みを行い、共同研究開発や販路開拓に繋げて行くものです。

けいはんな学研都市においては、環境・エネルギー産業、中でも「トランスポーテーション分野」や「ホームtoタウンネットワーク分野」を中心に新産業の創出を目指すこととしています。川上・川下企業とのアライアンスを進め、「共同研究」や「産学連携プロジェクト」の創出を通じて、新商品の開発、新産業の創出の仕組みづくりに取り組んでいます。

10月には、全体フォーラム、12月にはマッチングフォーラムを開催し、地域の金融機関と連携したマッチング個別商談会も活発に行っています。



日中産学公連携プロジェクト2009

中国と日本の環境関連企業の取り組み

環境関連の中国企業と日本企業（京都及び関西）が環境関連技術の活用について、情報を交換し、相互が連携し、中国の環境問題の課題解決を促す「京都府陝西省環境経済技術合同会議」が中国・陝西省西安地区で開かれました。合同会議では、両政府の首脳、京都府麻生副知事が出席し、両者で事業実施の必要性を確認しました。

日本から参加した堀場製作所、三洋電機、日新電機など11社は、日本の製品・技術について、日本の環境技術に関心のある西安市・宝鶏市・天津地域の企業20数社、30数名に熱心にアピールを行いました。現地企業の関心は高く具体的なビジネス展開に向けた商談を始めました。

天津経済技術開発区（TEDA）では、環境技術の導入に係るプラットフォームの構築が進み、TEDA日本事務所（東京）との交流窓口が決まりました。TEDAからは、既に日本側に設置されている「国際環境技術移転センター（アイセツ）」と、定期的な交流提案がありました。また、平成22年3月の訪日に向け、準備が始まりました。



京都府・陝西省合同会議



天津・プレゼンテーション

国際シンポジウム

『GWIN2009』世界の水問題とナノテクノロジーの開催

2009年9月30日～10月2日、世界で進行中の水危機に対してナノテクノロジーがどのような解決をもたらさうかを討議するため、国際シンポジウム「世界の水問題とナノテクノロジー」（GWIN2009）を京都環境ナノセンター、京都高度技術研究所の主催で開催しました。会議は10月2日のメインシンポジウム（於 けいはんなプラザ）に先立ち、9月30日にサテライトシンポジウム「世界各地の水事情と新しい展開」（於京都大学桂キャンパス）および10月1日に京都の水・環境関連施設への見学会（京都高度技術研究所主催）を実施し、参加者総数は360名を超えました。メインシンポジウムでは、水処理現場への先端技術の導入状況、世界を先導している我が国の企業における水関連先端技術の開発実績と将来展望、アメリカの水やナノテク関連の研究や業務を行っている大学や国立研究機関の状況、京都環境ナノクラスターにおける水関連研究に関する講演が行われました。参加者は大学や企業、水関連事業者と広範囲にわたり、水問題とナノテクノロジーとの接点、すなわち、環境問題の事業化への関心の高さが窺われました。



2009年度 第2回特別フォーラム

「持続可能社会」を実現するための 科学技術の新しい役割を求めて

2009年11月26日、関西経済連合会と共催で、大阪・中之島センタービルにて、特別フォーラムを開催いたしました。関西経済連合会小林哲也学研都市担当委員長（近畿日本鉄道株式会社代表取締役社長）からの挨拶に続き、国際高等研究所尾池和夫所長から、「文化としての科学と技術」と題し、基調講演をいただきました。次に、けいはんなを代表する4つの研究機関、地球環境産業技術研究機構（RITE）湯川英明理事、日本原子力研究開発機構河西俊一関西光科学研究所長、国際電気通信基礎技術研究所（ATR）萩田紀博知能ロボティクス所長、奈良先端科学技術大学院大学新名淳彦副学長から、各研究機関の高度先端技術の進捗や方向性について講演していただきました。その後「持続可能社会」の構築や、けいはんなの役割等について、講演者相互でディスカッションが行なわれました。

約230名のご参加があり、熱心に聞き入っておられました。



講演要旨「文化としての科学と技術」

（財）国際高等研究所 所長 尾池 和夫氏



事業仕分けでの科学技術関連への昨今の厳しい判定は、国家的損失を招くと危惧している。基礎研究への投資こそが我が国の発展と世界への貢献の力であり、次代の研究者育成に重要である。

人間はいろいろ予測好きであるが、きれいな地球を作っていく、という観点を原点に、今をしっかりと見つめ、物事を考えることが大事である。太陽は、エネルギー源としてあと100億年のエネルギーを安定して供給する。月の引力によって、地球が公転面に23.5度の角度で安定して自転し、その結果季節が生み出され、潮汐が干満や干潟をつくり、生態系を豊かにし、海水の循環を作りだしている。そして地球の重力が大気を維持し、水が蒸発せず、また、完全に凍結しない温度に保たれている。

「地球にやさしい企業」というフレーズがあるが、企業活動などは地球規模では微々たるものである。地球の歴史では過去、生物の大量絶滅が5回あり、次も必ずある。石炭は8000万年～1億年前の白亜紀の植物が炭酸ガスを固定してできたものであり、石油も大発生したプランクトンから生まれた。当時は今よりも炭酸ガス濃度は高く、20度ほど気温も高かったが、氷河期と間氷期をくりかえし、温度調節してきた。よって、温暖化は人間にとっては大変であるが、地球自体を恐れすぎる必要はない。1万2000年前の氷河期には、海水面は今より120メートル低い所にあり、約8000年前に、氷がとけて現状のレベルになった。京都盆地や大阪平野が海だったり紀伊半島の沖が海岸だった時代もある。物理学者の立場から、あえて誤解を恐れず言うなら、海面の上昇や下降は、本来の地球の姿だ。

「持続可能な社会」というのは、人間が生き延びることだけの側面を考えたものである。低地や島しょ国の海面上昇は、経済的には問題であるが、地球規

模の変動の歴史も認識して議論する必要がある。

地震については、日本やインドネシアなどアジアでは頻繁におきる一方で、オーストラリアやイギリス、北欧、アメリカ東部など、安定地域では発生しない。この安定と変動が文化の多様性を作りだす。

日本列島はプレートの動きで縮んできており、それが戻るとき、東海地震、南海地震は20、30年程度の間に起こる可能性が高い。恐れすぎず、それに伴う様々な連鎖の発生を前提に物事を考えなければならない。

人類は10の20乗ジュールのエネルギーを1年に消費しているが、それは太陽から地球に届く量の1時間分である。竜安寺の石庭にある、吾唯足知（われただ足るを知る）、のReduce Reuse Recycleの世界が大事で、もったいない精神を持ちつつ、エコを楽しむ位の気持ちで、我慢をしすぎず、暮らすのが良い。

恐竜の骨を発掘していると、争っている2匹の恐竜がそのまま出てくることがあり、それを見ていると、人間が絶滅した後、汚いごみだらけで化石になるのは恥ずかしいと思う。次の地球に生まれる文明が、きれいな我々の化石を掘り出せせるようにしていきたいものである。



京都府けいはんな
ベンチャーセンター

学研都市から羽ばたけ 輝くベンチャー



株式会社フレアリンク



代 表：中山 清喬
所在地：〒619-0237
京都府相楽郡精華町光台1-7
けいはんなプラザ ラボ棟5階
T E L：050-5806-7196
E-mail：info@flairlink.jp
U R L：http://flairlink.jp

「世の先進技術を、あなたの日常にする」競争優位化 プロフェッショナル、フレアリンクを宜しくお願い致します。

インターネットの技術革新は「1年前はひと昔」と言われますが、現在殆どの方が利用しているものは「5年以上前」——つまり「大昔」の技術だにご存じでしたか。乱立する「近年」の新興技術の中には、いまず採用でき、コストを半分にしたり、不可能を可能にするものもあります。しかし玉石混交で情報が分散・流動的なため、先進技術に特化したノウハウなくして導入は困難でした。「先進技術のメリットを、もっと手軽に・安定的に届けたい」という想いを持つ、IBMやオムロン社内ベンチャーの先進技術適用の専門技術者らによって当社は結成されました。私たちは、
1. 経産省公認資格ITコンサルタントとして経営/ITの両面からご相談を伺い、コストや効率を大幅かつ安全に改善できる最適な技術をご紹介。必要に応じて開発・導入の支援、さらに社員や技術者様への教育研修も提供致します。
2. 先進技術を活用し、世界中どのパソコンからでも自由かつ安全にソフトや自分のファイルを利用できる次世代Web基盤を今冬から試験提供します。
「世の先進技術を、あなたの日常にする」競争優位化プロフェッショナル、フレアリンクを宜しくお願い致します。

TF技研



代 表：上田 一之
所在地：〒619-0237
京都府相楽郡精華町光台1-7
けいはんなプラザ ラボ棟5階
T E L：0774-95-5099
F A X：0774-95-5099
E-mail：uedakzyk@nifty.com

水素顕微鏡など科学機器の研究開発・販売

TF(Top of the Field)技研は応用物理や触媒化学の分野に関連した研究機器の開発研究を行っています。最も特徴的なのは固体表面の水素の可視化を行い、水素の2次元マップを測定できる水素顕微鏡を世界で初めて開発したことです。今後は依頼分析や水素検知器(Protoscope)、水素顕微鏡の製造販売も手がける、大学発ベンチャー企業として展開します。水素検出器はオンフランチ型のもので203mmICFに取り付けが可能です。低速電子回折装置(LEED)や蒸着装置にこの装置を取り付けると、水素の検知と従来のLEED-Augerの観察が可能です。応用物理関連の計測機器、計測システムの相談に応じます。

株式会社ATR-Trek



代 表：西田 明弘
所在地：〒619-0237
京都府相楽郡精華町光台1-7
けいはんなプラザ ラボ棟4階
T E L：0774-95-5037
E-mail：info@atr-trek.co.jp
U R L：http://atr-trek.co.jp

音声認識・言語翻訳・音声合成による ソリューション・サービスを提供

声で機器操作や文字入力、自動翻訳機、機器との対話などの楽しく便利なソリューションを開発、提供いたしております。各種エンジンやサービスに合わせた、辞書・モデルを提供いたします。

1. 音声翻訳アプリ「しゃべって翻訳」のサービス提供。
NTTドコモ様携帯でご利用可能です。
2. 音声入力メール、音声入力クイック検索 への技術提供 (NTTドコモ様携帯)
3. 2009年 総務省「音声自動翻訳技術の実証実験」に採択され、関西主要施設での音声自動翻訳の実験を実施。

要素技術は(株)国際電気基礎技術研究所(ATR)で開発されました。

京 都 府

けいはんなベンチャーセンター 入居案内

“京都府けいはんなベンチャーセンター”は、スタートアップベンチャー向けのインキュベート施設です。

低廉な価格設定と関西文化学術研究都市内に立地する優れた研究環境、「新産業創出・交流センター」による事業支援で、入居企業の事業拡大を力強くバックアップいたします。

所 在 地 京都府相楽郡精華町光台1-7
けいはんなプラザラボ棟4～6階北側

使用負担金 15,000円/月～
(1年目…傾斜家賃制) [学生特例有]
敷金・礼金・保証料なし
使用期間…3年

※入居の条件、使用負担金の詳細等については、お問い合わせください。入居審査の結果、ご希望に添えない場合もございますので、ご了承ください。



連絡先：新産業創出交流センター
TEL/0774-98-2230
E-mail/venture@keihanna.biz

株式会社加地 けいはんなR&Dセンター

専務取締役 小川 要 氏



ひとにやわらか。エクスジェル。

【本社・工場】

〒699-1511

島根県仁多郡奥出雲町三成1295-3

TEL: 0854-54-2288 FAX: 0854-54-2282

URL: <http://www.kaji-web.co.jp/>

【けいはんなR&Dセンター】

〒619-0237

京都府相楽郡精華町光台3-2-7

TEL: 0774-98-2633 FAX: 0774-95-3853

【事業内容】

EXGEL商品製造販売、自動車内装部品加工、バッグ製品縫製加工

EXGELは心地よさと安心を提供します。

長時間オフィスワークによる悩み。「座りっぱなしで腰が痛い!」という声はオフィスに限らず、長時間の車の運転など、どこからでも聞こえてきそう。

また、車いすを利用する人にとって「座る」という姿勢を楽に続けることができれば、負担も軽くなるはず。

1969年、島根県で創業した(株)加地は、当時スポーツシューズの縫製を手掛けていた。「人のからだに優しく」をモットーとし、新たな商品を開発すべく、試行錯誤の末、新素材“EXGEL”の開発に成功した。このEXGELを使った商品が、オフィスワークや日常生活の様々なシーンに見られる「座る」「寝る」という姿勢の負担を軽減する為のクッシ

ョンとして多くの人に愛用されている。

EXGELはやわらかい材質で人体の圧力を分散し衝撃を吸収することで、身体にかかる負担を和らげる。まさに、EX=優れた GEL=ジェル。

そのほか、チャイルドシート、ベビーカーなど、EXGELの特性を活かした商品はすでに多くの分野





けいはんなR&Dセンター外観

で供給している。最近では「高速道路 休日1,000円 乗り放題」の制度が追い風となって、この夏、自動車用のクッションの売上が大きく伸びた。決して安い商品ではないが、使い心地の良さを一度実感すると、長く愛用される。2007年には京都市ベンチャー目利き委員会のAランク認定を取得した。

現在、高齢化社会が進む日本では、介護を必要とする人が増加している。長時間ベッドに寝ている患者さんや車いすを利用している患者さんに多く見られる“床ずれ”対策にEXGELは有効だ。介護・福祉分野の商品のほとんどが、厚生労働省から介護用品としての認定を受けているため、介護保険が適用される。今後は日本の市場だけでなく、ヨーロッパ・アメリカの海外の市場開拓にも積極的に取組んで行く予定だ。更に、じっくりと腰を据えた研究開発も行っていきたいと今後の発展に向けた意気込みが感じられる。

2006年、けいはんなプラザの北側に中小・ベンチャー企業が集積する「けいはんなベンチャービレッジ」が開設された。(株)加地 けいはんなR&Dセンターは、その第1号企業としてこの地に竣工した。「当時、周囲には企業がほとんどなかった。ここ3年でこれだけの企業が集まり、活力に溢れている都市はめずらしい」と小川要専務は言う。現在、精華地区にはベンチャービレッジに立地する企業をはじめ24社が学研都市へ進出してきている。2009年8月には企業同士の交流を図り、地域社会と企業の発展に寄与することを目的とした「けいはんな学研都市精華地区まちづくり協議会」が創設され、その理事も務める。「このエリアで働いている人たちがプライドや満足感を持てるようなまちづくりを考えていきたい。そのためには支援機関に全てを任せるのではなく企業側も考えて行かなくてはならない。ここで働く人たちが自然な形でコミュニケーションがとれるよう、まちづくり協議会で検討していきたい。」と語る。

安定した姿勢を、さらに心地よく。

エクスジェルが身体をやさしく支え
座位バランスのサポート力をアップ

 owl-cushion

自然に楽な姿勢を保つ
エクスジェル サポートセット

体圧分散性に優れた
エクスジェル アウルクッション

その優れた機能を融合した
新しい車いす用クッションを
お届けします




株式会社 オプト・システム

代表取締役社長 大竹 文夫 氏



【本社】

〒610-0313

京都府京田辺市三山木野神100

TEL: 0774-68-4440 FAX: 0774-68-4444

URL: <http://www.opto-system.co.jp>

【R&Dセンター】

〒610-0313

京都府京田辺市三山木野神78

TEL: 0774-68-1756 FAX: 0774-68-1757

【事業内容】

光半導体の検査装置及び電子ディスプレイに関する検査装置並びにチップ加工装置の設計、製作、販売、並びにエンジニアリングサポート。

豊富な経験から生み出される最先端技術がLED品質を支える。

ここ最近、特に耳にするようになった“LED”は、Light（光）Emitting（出す）Diode（ダイオード）の頭文字をとったもので、「光り輝く半導体」という意味がある。LEDは消費電力が少なく、材料に有害物質を含まないことや、熱の発生も少ないことから環境負荷が少ない素材として注目を浴びている。

株式会社オプト・システムは、LED検査装置等の研究開発から製造まで手掛けており、今年で創業30年を迎えた。この業界でLEDチップ工程の加工・検査・分類装置を中心に受注生産をしている。通常、測定・検査は静止した状態で行うものだが、オプト・システムの装置は、製造ライ

ンの中で測定することができる。物理的に難しいことが要求される事も多く、大きさ約0.3ミリのチップの明るさ、ムラ、キズなどを検査する装置では、計測の速さはもちろん、精密さを要求される。求められるスピードに答えるためには、各行程を個々にやるのではなく、総合的に計測から位置決め、データ処理、画像解析までをシステム化して行く。これがオプト・システムの「売り」「コア技術」である。「大手企業が研究開発をして作ったLEDを我々の装置を使って検査する。我々は、大手企業とタイアップすることで、より高度な検査装置を作っている」と大竹文夫代表取締役は言う。大量生産品ではないため、大手企業では採算が合わない。まさに、中小企業のニッチ産業だ。これ



本社



R&Dセンター

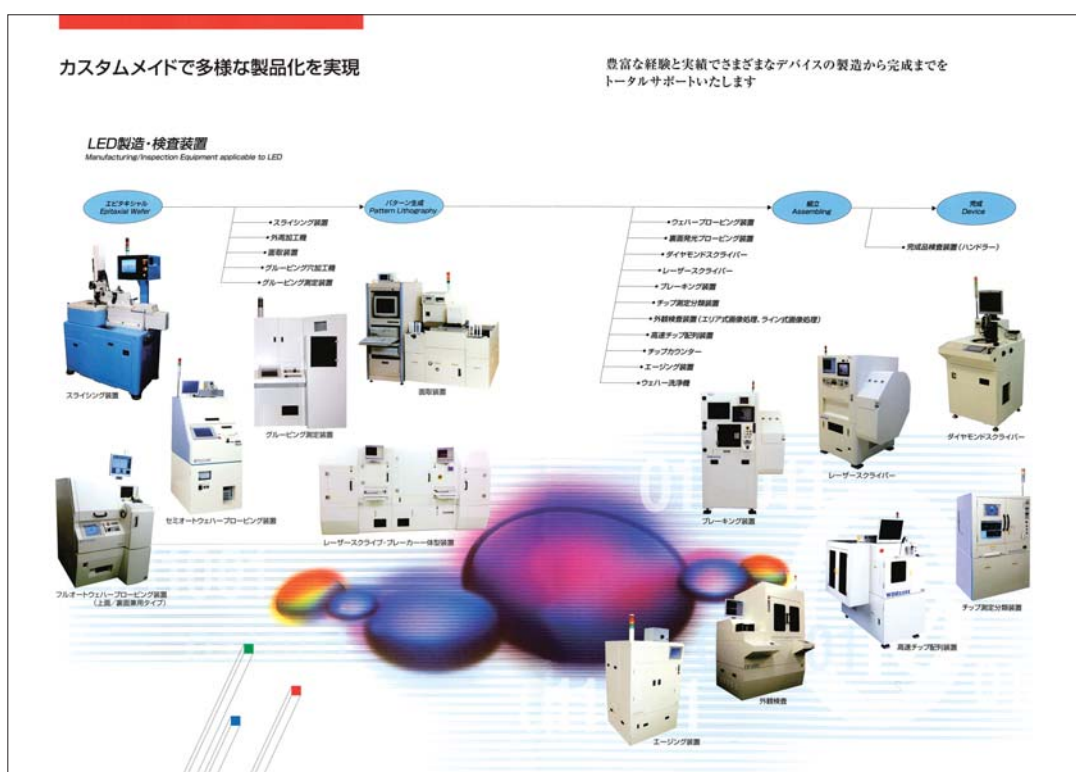
までは、顧客の要望に合わせて、カスタム方式で生産をしてきたが、今後は標準化し、計画的に生産できる商品を作っていきたいという。

毎年、北海道にある光技術を専門に扱う千歳科学技術大学から数名採用し、現在、約80名の技術者を抱えている。中でも、各機能を連動させるためのソフトウェア技術が重要だ。この分野は特に壁にぶつかると仕事を抱えこんでしまう傾向があるため、社員のメンタル面には常に気を配っている。

LEDは、2009年のヒット商品番付でも上

位を獲得するなど、まだまだこれから需要が期待できる。海外への営業展開も活発に行っており、特に、韓国で最大手の電子部品メーカーサムスン・LGがバックライト等LED製品を本格参入したことで、大量の検査装置が必要となり、安定した製造・供給を行うため合弁会社を設立した。その他、台湾・中国・アメリカに事務所を構えている。

「リーマンショック以降、我々のような設備産業は本当に厳しかった。しかし、LEDは環境への負荷を低減する部材として、注目を集めている。我々のマーケットは先行きが明るく、恵まれている」と期待する。



ものづくり・ICT、環境、光、医療、 第4回 けいはんな ～環境・エネルギー～

2009年7月16日(木) けいはんなプラザにおいて、「第4回けいはんなビジネスメッセ」を開催しました。

今年は、ものづくり・ICT、環境、光、医療、健康・福祉分野から100を超える出展企業と1200名を超える来場者を迎えました。有力な情報を交換し、商談に発展するなど有意義なビジネスマッチング展となりました。

今回は、環境先進都市を目指し、けいはんな学研都市が取り組みを進めている「環境産業の創出」を重視し、けいはんな環境・エネルギー研究会を同日開催しました。展示会場においても、環境を重視した出展が多く見受けられ、電動バイクや電気自動車の試乗会も行われました。

また、平城遷都1300年記念事業のマスコットキャラクター「せんとかん」とATR知能ロボティクス研究所の「ロボビー」が登場し、会場は大変な賑わいをみせました。



健康・福祉

ビジネスメッセ開催

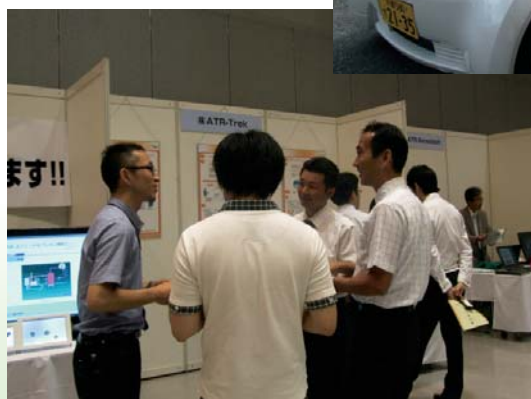
新産業の創出を目指して～



大阪工業大学大学院
知的財産研究科 教授
山崎 攻氏



シャープ株式会社
取締役専務執行役員
技術担当(兼)知的財産権本部長
大田 賢司氏



KEIRIN



この事業は、競輪の補助金を受けて実施しました。

<http://ringring-keirin.jp/>

世界同時不況時における 企業の特許戦略



大阪工業大学大学院知的財産研究科

教授 山崎 攻 氏

1971年 東京大学工学系大学院 修士課程卒。

同年、松下電器産業(株) (現パナソニック(株)) 入社

1997年 同 研究本部 中央研究所 所長

2001年 同 知的財産権本部 本部長

2004年 大阪工業大学 教授

今、世界同時不況が起こっています。この不況に直面して、我々は知財の視点から何を考えたらよいか、また、どのように考えたらよいかについてお話しします。

今回の不況は、過去のバブル崩壊時の不況とは全く異なっています。バブル不況は、幸い海外が順調でしたから日本企業は海外への「輸出」で切り抜けることが出来ました。ところが今回は世界同時不況ですから、輸出する先がありません。日本は貿易赤字となり、世界の工場と言われた頃の面影もなく、日本経済が地盤沈下したかに見えます。

しかし、「ピンチの後にチャンスあり」と言います。景気回復のために今何をすべきか、知財の客観的なデータを基に考えてみたいと思います。

景気循環について50年周期説をとる“コンドラチェフの波”が知られており、「不況時に技術は進化する」と言われます。これについて経済学者は一定の解釈を与えておりますが、私は、企業の生産設備の技術開発・事業経営で幾度も不況を乗り切った経験から、別の見方をしています。後になって振り返れば、“従来の製品では売れないために、従来にない新しい技術の開発に必死の取り組みをした結果として”新しい技術が生まれたのだと思います。それを知財戦略の観点から考えてみます。

今日、企業の知財戦略は経営戦略との整合が求められます。ところが経営には財務諸表のような管理手法がありますが、知財には状況把握・分析のためのツールがありません。知財の分析ツールを作りたい…これが私のライフワークです。全社経営を動かすために、何とか知的財産の「可視化」をしたいと考えて来ました。そこで、その一つの手

段として独自の指数を用いた「パテントポートフォリオ」を考案しました。

このポートフォリオは、特許出願・登録と売上高を基にした独自の指数を用いて、企業の経年的変化を表現し、分析するものです。ここでは縦・横軸に次の指数を仮定して用いることにしました。

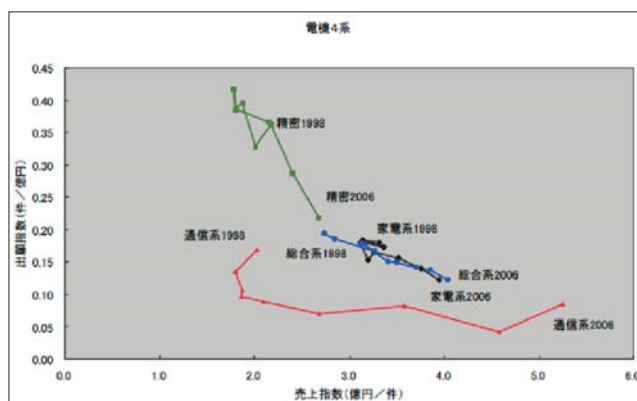
(横軸) 売上指数

= その年の売上高 / 過去5年の累積登録件数

(縦軸) 出願指数

= その年の出願件数 / その年の売上高

これを日本の代表的な企業群である電機11社に適用し、家電系、総合(電機)系、精密(電気機械)系、通信系にグループ分けして、1998年～2006年までの経年変化をみると図のようになります。



グループごとの経年的変化

全体に年とともに右下がりの傾向を示していることがわかります。なぜ右下がりの傾向を示すのでしょうか？ その理由は2つあります。すなわち、①近年、各社の商品がCommodity化し、大量に売れるが新技術開発が少なくて済む成熟型に移行したこと、②各企業が事業構造の改革を進め、何でも作る会社から得意分野に集中する専門型へ移行したこと。企業が戦略的に決めた分野では特許出願が増えますが、その企業全体の出願数は低下します。この右下がり傾向は製造系の会社が取ってきた戦略を明解に示しています。この経年的傾向は精密系でも同じですが、商品がCommodity化しにくいので、出願数は依然高い領域にあります。一方、通信系はITサービス事業比率が高いので、製造業とは異なった経緯を示します。

この特許ポートフォリオを、トヨタグループ各社や、石油化学業界各社などに適用しても、全く同じ結果となります（詳細略）。さらに、製造業的性格の強い9業種（51社）を調べると、全体が $y = 1/x$ 累乗近似曲線によく乗ることが解りました。

このように、特許ポートフォリオは、企業の事業構造、技術開発と知財の状況をはっきり示すので、知財状況の分析ツールとして有効に使えます。知財戦略は経営戦略

と密接にリンクさせなければなりません。特許ポートフォリオによって、経営戦略に沿った知財戦略を打ち立てることが可能となり、「知財立社」を実現できるでしょう。

ところで私は、「知財立社」に加えて、技術の皆さんへ「知財立者」を奨めています。「知財立者」とは、自らの専門技術を時代の要請に合わせて磨き、他社技術者より創造性で勝り、知財権を確保することです。先般、ある有名なI社が倒産しましたが、私は当然の事と思っています。その会社では技術者は指示されるままに一生懸命、ただ汗を流すだけの「単純頭脳労働者」にさせられていたからです。これでは技術開発も特許出願も望めません。むしろこの逆をすべきです。また、特許をたくさん出願する人は、工夫と努力があります。今日ご紹介できませんが、技術の皆さんにはぜひ知っていただきたいと思います。

世界同時不況は、経費削減だけでは乗り越えられません。知財・技術・経営の舵を大きく取って、技術開発を集中して行い、重要特許を獲得することで、競争力を高めるべきです。また、不況下では技術者は大いに期待されますので、真価を発揮するチャンスです。これも、松下幸之助が言う、「不況、また良し」ですね。



Keihanna International Business Creation and Interactive Community Salon

けいはんな国際ビジネス・交流サロン

新産業創出交流センターの「国際ビジネス・交流サロン」では、中小・ベンチャー企業向けの海外ビジネス支援をはじめ、けいはんな学研都市で活躍される外国人研究者・起業家及びそのご家族の皆さま向けに生活サポート情報を配信しています。

また、日本語の指導経験が豊富な「せいかグローバル社会を推進する会議（愛称：せいかグローバルネット）」の講師によるマン・ツー・マンレッスンも実施しておりますので是非ご利用ください。

■日本語教室の概要

- 形式：個人レッスン（一人につき一人の講師）、あるいは少人数制
- 時間：10：00～16：30（月～金曜）
- 場所：けいはんな国際ビジネス・交流サロン（けいはんなプラザ ラボ棟3階）
- 対象：日本語を母国語としない方で、学習意欲のある方
- 費用：無料。ただし、参加費として1,000円／6ヶ月が必要です

※見学希望者は随時受け付けています

※上記以外の時間と場所でも対応できますのでご相談下さい



問合せ先：新産業創出交流センター 国際交流・ビジネス交流サロン

TEL：0774-95-5214 FAX：0774-98-2202 mail：seika@keihanna.biz



第4回 国際創造都市フォーラム／市民公開講座

けいはんな光医療産業バレー拠点創出シンポジウム開催 ここまで進んだ!がん治療

2009年10月29日(木)けいはんなプラザにおいて、「第4回けいはんな光医療産業バレー拠点創出シンポジウム」を開催しました。

基調講演として、夢の治療法とも称される「粒子線治療」の最新状況について、兵庫県立粒子線医療センター名誉顧問 阿部光幸先生からご講演いただきました。

特別講演では、(独)日本原子力研究開発機構 関西光科学研究所長 光医療研究連携センター長 河西俊一氏より「小型レーザー駆動粒子線がん治療器」を開発する“『光医療産業バレー』拠点創出プロジェクト”で進められているレーザー駆動粒子線がん治療器の研究の進捗について報告がありました。

充分なエネルギーを持つ陽子線を発生させることができるかどうか、プロジェクトの大きな課題であるが、この2年余の研究により、がん治療として最低必要な粒子線(陽子)エネルギー約80MeVに対して、当初2~3MeVであったものが、約20MeVまで高めることが出来たなど、大きな成果が得られつつあることが報告され、参加者の注目を集めました。

午後は、京都大学病院・京都府立医大病院で、多くの患者さんを抱え、日夜がん治療に奮戦中の“新進気鋭”の先生方より、がん治療の現場を熱く語っていただきました。「化学療法」、「外科療法」、「放射線療法」をがん治療の3本柱とし、また新しい治療法「ハイパーサーミア療法」、「免疫療法」についてのお話がありました。人々が抱えている不安の軽減に少しでも役立つことを目標とした今回のシンポジウムでは、各方面より200名を超える皆様にご参加をいただきました。



レーザー駆動粒子線治療器の模型

光医療産業バレー研究会および 重点研究分科会メンバー募集

研究会および分科会のメンバーを募集しております。本活動に関心をお持ちの方は、事務局にお問い合わせ下さい。

特に、医療・産業・研究機関・大学・自治体等の関係者などで本活動に積極的にご協力いただける方のご参加を期待しております。

実施：隔月第3水曜日(研究会)、年1~3回程度(各分科会)

場所：けいはんなプラザ(予定)

会費：無料

入会：研究会世話人会の承認をもって正式入会とします。規約の遵守をお願いします。
規約の入手については事務局までお申出下さい。

事務局：新産業創出 交流センター TEL 0774-98-2240

URL <http://keihanna.biz/pmv/> ※メールでのお問合せは左記URLよりお願いします。

「けいはんな情報通信研究フェア2009」を開催

けいはんな学研都市の情報通信分野の研究機関や大学が一同に会し、最先端の研究成果の展示や発表会を行う「けいはんな情報通信研究フェア2009」が、11月5日(木)から7日(土)の3日間、けいはんなプラザ、ATR、NICT、CSKの4つの会場で開催され、2300人を越える来場者で賑わいました。各会場では、「脳を繋ぐ」研究の中から頭で考えるだけで直接コンピュータやロボットを制御できる革新的なユーザーインターフェースが生まれつつあることを紹介し、大きな反響を呼んだATR脳情報研究所の川人光男所長による基調講演(※1)を皮切りに、多言語音声翻訳システムなど93に及ぶ研究展示や、ジェミノイドのヨーロッパ公開実験など29テーマの研究発表が行われました。

また、期間中は、7.22皆既日食の超高精細全天映像上映や子ども工作教室、クリケット(小さなコンピュータ)ワークショップ、今話題の「せんとかん」の来場など、地域の方々や子どもも楽しめる多彩なイベントが企画され、多くの来場者を集めました。そして、最終日に行われた特別講演(※2)では、ファミコン時代からのトップゲームデザイナーである立命館大学のサイトウアキヒロ教授が、世界中を魅惑している任天堂ゲームのノウハウとその応用事例を説得力あふれた話術で語り、参加者に大きな感銘を与えました。

今回、フェアに参加したのは、主催者である情報通信研究機構(NICT)、国際電気通信基礎技術研究所(ATR)、関西文化学術研究都市推進機構をはじめ、オムロン京阪奈イノベーションセンタ、CSKホールディングス大川センター、日本電気C&Cイノベーション研究所、NTTコミュニケーション科学基礎研究所、パナソニック先端技術研究所、大阪電気通信大学、同志社大学、奈良先端科学技術大学院大学(NAIST)、和歌山大学など14の研究機関や大学。

開会式典では、これらの機関の代表者が壇上に勢揃いし、一体となった研究機関の姿を内外にアピールしました。

(※1)「脳情報通信とブレイン・マシン・インターフェース」

(※2)「任天堂ゲームの世界的なヒットを生み出す京都のおもてなし文化と、その秘訣を他分野で活用する秘訣とは」



「わくわくサイエンス満喫ツアー」が行われました。

子どもたちが家族とともに科学に身近に触れる機会を提供することを目的として、11月7日、奈良県大和郡山市にある奈良工業高等専門学校において開催された「青少年のための科学の祭典2009奈良大会」と「けいはんな情報通信研究フェア2009」とをめぐるバスツアーが実施されました。

この企画を実施した「まほろば・けいはんな科学ネットワーク」は、今年度から奈良女子大学が中心となり、関西文化学術研究都市推進機構、けいはんなの研究所、奈良高等専等の教育機関や関係自治体が参画し、科学普及活動のネットワークを構築するために科学技術振興機構の支援を得て活動しています。

当日は、近鉄奈良、新祝園、高の原、近鉄郡山などから3台のバスに分かれて52人が両会場を訪問しました。奈良市、桜井市等では、新型インフルエンザの影響で休日にかかわらず授業を行う小学校があり、参加したかったのに参加できなくなったという方々も多数出てしまいました。

アンケートでは「科学が身近に感じられ、楽しかった」「とてもよい企画なのでもっとPRしてほしい」「いろいろと楽しめたが時間に追われる感じがかった」などの意見が寄せられました。

参加した子どもたちにとっては、高専会場でいろいろな工作や実験を体験し、けいはんな会場では最先端の研究成果を見聞し、実際に体験するなど科学に関して新鮮な驚きを感じてもらえた一日となりました。



車間通信システムの屋外デモンストレーション(ATR)

『けいはんな学研都市から刃物革命』を！

＜けいはんなレーザ・微細加工研究会の活動＞

2007年11月から活動を開始しました、「けいはんなレーザ・微細加工研究会」では、けいはんなエリアの会員企業ニーズの主流である『刃物』に焦点を当て、①光（レーザ）で加工する、②光で刃物を強くする、③光で刃物の切れ味を良くすることを目標とし、「刃物革命」を興すべく、研究会の運営に取り組んでいます。（財）関西情報・産業活性化センター（kiis）事務局のレーザプラットフォーム協議会とも常に連携を取り、研究機関と会員企業とのマッチングを推進します。

会員企業（株）カキモトの

メタルアートのご紹介

（株）カキモトは、板金加工・レーザ加工を専門とした技術集団です。明治40年から受け継いだ、ものづくり職人達の優れた技術力、最新のレーザ加工、国内メーカーの部材を使用し、こだわりと癒しを追求した金属工芸品メタルアートを製作しています。

「華倭里行燈」、「ゆらり工芸 ふりとらくん」は、家庭のインテリアや贈り物として人気があり、また、ブライダル用デザインも大変好評です。



■企業の方から個人の方までお気軽にお問い合わせ下さい。

株式会社 カキモト 奈良県生駒郡三郷町立野北2丁目19-8 TEL：0745-72-2240
E-mail：info@kakimoto-net.co.jp URL：http://www.kakimoto-net.co.jp/

KITコミュニティ会員募集

KITコミュニティは、新事業創出を目指す企業・機関・個人で構成される『顔の見える人的ネットワーク』です。

新技術・新商品の保有者、利用者、支援者の3者が連携してイノベーションを起こしていくことから、Keihanna Innovation Triangle を略して、KIT（キット）コミュニティと呼んでいます。

会員の皆様が、けいはんな学研都市とその周辺にある知・財・組織のポテンシャルを最大限に活用し、企業同士や大学等との効果的な連携を展開することにより、世界に通用する新事業が次々と創出されて行くことを期待しています。

【KITコミュニティ会員のメリット】

- コーディネータ、専門家による新事業創出支援、経営相談など
- フォーラム、展示会、センターホームページでの新技術、新商品、ビジネスプラン等の発表機会を提供
- 事業化を目指す研究会、プロジェクト活動への参画を支援
- 公的支援情報、イベント情報、ビジネス情報や会員情報などをメールで配信
- 入会金、会費等は無料



問合せ

新産業創出交流センター
TEL：0774-98-2230 FAX：0774-98-2202

エキスパート・ボランティア募集

あなたのキャリアで新事業を育てませんか！

けいはんな学研都市エリアを中心にコーディネートを行い、様々な事業化支援活動に取り組んでいただける「エキスパート・ボランティア」を募集しています。

募集要領

対象：情報通信・IT、化学、機械、材料、電気、バイオ、マーケティング、経営管理、産学連携、知財等に関する専門知識、経験をお持ちの50代～60代の方。

応募資格：パソコンをお持ちで、E-mail、インターネットを使える方。月1回・大阪中之島センタービルで開催される定例会に出席できる方。

注記：無報酬のボランティアです
（交通費等活動に伴う実費は支給。）

問合せ：新産業創出交流センター
大阪オフィス
TEL：06-6441-9213 FAX：06-6441-9347

エキスパート・ボランティア制度について

企業のOBがボランティアとして活動するエキスパート集団です。長年にわたる知識と経験、幅広い人脈を生かし、技術マッチングや販路拡大支援など、幅広いコーディネート活動に取り組んでいます。



Welcome to けいはんな

本コーナーでは、スタッフおすすめの、けいはんな学研都市の見どころ、グルメスポットを紹介します。

うな喜

レポーター →
大阪オフィス所属
天野 了一
通称：あまやん



けいはんな学研都市の落ち着いた雰囲気魅せられた山田店主ご夫妻が、昨年7月に近鉄百貨店奈良店から引っ越し移転して開店したうなぎ専門店です。

選びぬかれた三河産のうなぎは、その場で腹開きされ、蒸さない地焼きの関西風。串を使わず、一匹一匹箸で丁寧に何度も返し、余分な脂を落としながら白焼きすることが、皮までかりっとした焼き上がりの秘訣です。

「詳細は企業秘密」という、三重産醤油、愛知産のみりんを贅沢に使った濃厚な熟成秘伝のたれは、マイルドで甘口の味付け。福島産コシヒカリとあわせ、お年寄りからお子様まで、うなぎの苦手な方でも、喜んで食べていただける味が自慢です。

山田店主ご夫妻「昔からのお客さま、そしてけいはんなの新しいお客様とのコミュニケーションと笑顔を一番の励みにしています。ゆったりとした雰囲気の中で焼きたての味を楽しんでくださいね。」



- 【住 所】 京都府相楽郡精華町光台9丁目9-3
(光台8丁目バス停前、けいはんなプラザより徒歩10分)
- 【電 話】 0774-98-3414
- 【営業時間】 11:00～15:00、17:00～20:15 (LO)
(お持ち帰りは時間内終日可能)
水曜定休(祝日の場合はその翌日)

メニュー:並丼1,100円、上丼1,500円、うなぎ定食2,100円他。平均予算1,500円

センターイベント

けいはんなサイエンス・カフェ

科学技術を中心に各界で活躍されている識者をゲストスピーカーに迎え、最先端の科学技術に触れつつ、和やかな雰囲気の中、参加者同士の会話が弾む異業種交流会です。



けいはんな若手研究者交流会

けいはんな学研都市に立地する企業、研究機関、大学等の若手研究者が自由闊達に意見を取り交わす交流会です。若い同年代同士、また研究者同士の一体感から、企業の垣根を超えた共同研究が生まれることを期待しています。

ベンチャーフォーラム

新進気鋭のベンチャー企業に自社技術発表の機会を提供することで、参加企業とベンチャーキャピタル等とのビジネスマッチングを支援しています。



シーズフォーラム

大学や研究機関が保有する技術シーズを、企業の担当者を前に発表するマッチング交流会です。参加企業におけるシーズ情報の収集と優れた技術シーズの早期事業化などを目的として開催しています。



けいはんなTKSビジネスセミナー

事業活動を行う上で課題となる様々な事例をテーマとして開催する企業向けセミナーです。企業経営者及び担当者における経営スキル向上や企業戦略の構築を支援します。

IIS倶楽部

けいはんな新産業創出・交流センターの活動や、新産業創出・ベンチャー・産学連携に関心をお持ちの皆様へ、最新情報をいち早くお伝えするためのメールマガジンIIS倶楽部には是非登録ください。

Eメールで情報を随時送信します。

お申し込みURL

<http://keihanna.biz/member.html>

(株)CSKホールディングス 大川センター



研究所や企業が立ち並びけいはんな学研都市。

休日に子どもたちの歓声で賑わう場所がある。CSKグループの研究施設、大川センターだ。2.7ヘクタールの広大な敷地には400本の桜の木が植えられている。桜の木は創業者の大川功氏(故人)が大好きだったという。

大川氏は、『高度に情報化の進んだ希望に満ちた未来社会の到来を夢見、それを実現できるのは、既成概念にとらわれることなく自由に発想する子どもたちである』と考え、自ら呼びかけ、1995年11月、東京にて「ジュニアサミット'95」を開催した。このイベントには100カ国以上の子どもたちが参加し、自由に意見交換を行なったという。これをきっかけにしてCSKグループは未来を担う子どもたちの育成に、社会貢献活動として取り組みを進め、2001年にCAMP (Children's Art Museum & Park) プロジェクトを開始した。

CAMPでは、「考える」「つくる」「つながる」「発表する」「ふりかえる」の要素で構成されたワークショップを現在までに約40種類ほ

ど開発、実践している。中でも人気を呼んでいるのが「CAMPクリケトワークショップ」。「クリケト」という小さなコンピュータと身の回りにある素材を使ってオリジナルの動くおもちゃをつくっていく。動きは、自分でプログラミングする。もう一つは「CAMP発明ワークショップ」。等価変換理論という発想法を使って身近にある道具のしくみや動物の特徴から発想を膨らませ、「今はないけど、ちょっと先の未来にこんなのがあったらいいな」と思う発明品をつくっていく。ワークショップを進行するのは、ファシリテーターと呼ばれるスタッフ。決して指導者という立場ではなく、子どもたちが主体的に活動に取り組み、創造性とコミュニケーションを広げていけるように子どもたちと同じ目線にたってサポートする。

子どもたちは、京都、大阪、奈良をはじめ遠くは名古屋から何度も足を運ぶ。年齢も学校も違う子ども同士が協力しあって作業を進めていく。始めは緊張した様子の顔も帰る時には「楽しかった!」と満面の笑みがこぼれる。ワークショップに取り組む姿は、授業参観とは違った輝きがあるという。

北川センター長は、「子どもたちが『ともに創る力』を自分たち自身で伸ばしてってもらいたい」とメッセージを贈る。

CAMPが開発したワークショップを全国の子どもたちにも届けようと、ワークショップパッケージの貸し出しも行われている。全国のNPO団体、科学館やミュージアムからのリクエストも多い。もちろん重要な役割を担うファシリテーターの研修や、ワークショップを開催していくためのサポート体制も充実している。

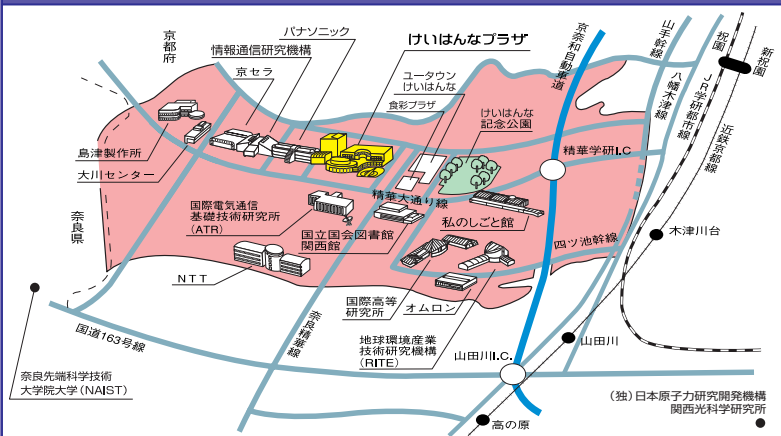


2008年秋以降、類例を見ない経済危機が世界を覆い、我が国、関西地域においても、革新的技術を伴う新産業の創出により、持続的な経済発展を導くことは、まさに焦眉の課題となっております。こうした中、けいはんな学研都市がその一翼を担うためには、中核組織が、これまで以上に総合力を発揮する必要がある、との考えから、2009年7月、(財)関西文化学術研究都市推進機構とけいはんな新産業創出・交流センターは、組織統合いたしました。

2005年の春、新産業の創出に向けた一歩を踏み出し、これまで力一杯走ってきたセンターは、今後、新体制のもと、関西エリアはもとより、日本の他地域、さらには、欧米、アジアの国々との交流も進め、近い将来世界を代表するイノベーションクラスターとなるべく、地域の皆様や大学・研究機関、企業の皆様と手を携え、着実に前進することを心がけてまいります。

この、けいはんなViewも2010年の春からは、新しく生まれ変わることとなりました。けいはんな学研都市の豊かな「自然」、世界遺産の平城宮跡を始めとした「歴史や文化」、持続可能な社会を目指した「科学」、住民の方々が、企業・研究機関の主催するイベントや地域コミュニティ活動に参加する「暮らし」とともに、中小・ベンチャー企業や大学、研究機関が連携し、新しい産業を起す「新産業の創出」にフォーカスし、けいはんな学研都市の「今」をお伝えしていきます。今後のけいはんなViewにご期待ください!(知)

(財)関西文化学術研究都市推進機構 新産業創出交流センター



〒619-0237

けいはんな学研都市(精華町光台1丁目7) けいはんなプラザ・ラボ棟3階
TEL: 0774-98-2230 FAX: 0774-98-2202

大阪オフィス



〒530-6691

大阪市北区中之島6丁目2番27号
中之島センタービル 30F (関西経済連合会内)
TEL: 06-6441-9213 FAX: 06-6441-9347

URL <http://keihanna.biz>